

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	B	学習の基礎基本をしっかりと身に付けるとともに、進んで学ぶ力、活用する力を育てる。	①全国学力・学習状況調査において、全国平均を3ポイント以上上回る。 ②全学年の児童が落ち着いて学習や活動することができる。 ③教員が指導方法をともに研修することによって、授業の質が上がり、どのクラスでも探究的な学習指導が行われる。	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	・各学級が年間1回以上は研究授業を行い、そのうち、3回以上は講師を招聘する。 ・学力調査等の分析をし、学校全体での対策を講じる。 ・特別な支援が必要な児童がパニックを起こすことなく、落ち着いて学習ができるようにする。	・学校評価アンケートの「自らうごく子になっているか」について、90%以上の児童が肯定的に答える。	・「自らうごく子になっているか」のアンケート結果は、肯定的回答が82%であった。 ・全学年が、講師を招聘しての研究授業を行い、全員参加の事後研修により研修を深め、講師から助言をもらい、研修を深めることができた。	・今年度から指定を受けている学校コンサル事業の目標である【やったあ！すごい！自信いっぱい香長っ子】の取り組みの一つである自尊感情を育てるために、いいところ見つけをあらゆる場面でを行い、承認や褒めることをさらに増やし、自信をもって行動できる児童に育てる。	・校長・教頭が一年目であるのに本当によく指導して頂いたと思います。 ・放課後教室が定着してきて学習に取り組む姿勢がみられる。	S ・ A ・ B ・ C
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	・授業での視覚支援に努める。 ・『学習のきまり』を再確認し、児童に配布する。 ・「香美市授業スタンダード」を徹底する。 ・学習規律、学習方法を統一する。	・学校評価アンケートの「授業がわかりやすいか」について、児童の肯定的な回答を95%以上にする。 ・高知県学力定着状況調査において、自校採点で各教科ともに平均正答率を70点以上にする。	・「授業がわかりやすいか」のアンケート結果は、肯定的回答が83.5%であった。 ・高知県学力定着状況調査の結果返却は2月下旬予定で、自校採点では4年の算数が+6.8Pであり、4年国語-1.1P、5年国語-1.7P、理科-1.9Pと近似値であったが、5年算数は-4.5Pであった。	・『香長スタンダード』の授業構成が全学年で徹底されてきた。さらに、「課題設定」「ふりかえり」に重点を置いた授業改善に取り組んでいく。 ・どの子にとっても、楽しく分かりやすい、ユニバーサルデザインの授業を意識し、取り組んでいく。		
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	・『家庭学習の進め方』を配布し、自主学習ができる児童を育てる。	・『家庭学習の進め方』を配布し、自主学習ができる児童を育てる。	・「家で宿題や予習の勉強をしている」のアンケート結果は、肯定的評価が90.4%であった。 ・『家庭学習カード』を続けることで、多くの児童が丁寧に家庭学習に取り組めるようになってきた。	・『家庭学習カード』を活用し、保護者と教員の両面から、さらに、子どものやる気を引き出すようなコメントや支援に努める。落ち着いて家庭学習に取り組むことができる環境を保護者にも啓発していく。		
豊かな心	B	自信をもって生活でき、仲間意識をもった行動ができる子どもを育てる。	①学校評価アンケートで、「自分には良いところがある」が90%以上、「挨拶を進んでしている」が95%以上の肯定的な回答をする。	朝の読書の継続 ・図書環境の整備 ・道徳の時間の充実(全学級が道徳授業公開) ・意識調査の分析	・学校評価アンケートの「読書が好きか」について、90%以上の児童が肯定的に答える。 ・学校評価アンケートの「あいさつを進んでしているか」について、肯定的な回答を児童・保護者ともに90%以上にする。	・「読書が好きか」のアンケート結果では、肯定的回答が90.3%であった。 ・「あいさつを進んでしているか」のアンケートの肯定的評価が、児童は89%、保護者が77.7%という結果であった。	・読書楽力検定やビブリオバトル等の取組を継続する。また、各学年に合った本を薦めるなど、読書の質を高める取組を行っている。 ・児童の「あいさつ」の意識は高くなってきている。引き続き、全校集会やお便り等で、あいさつの大切さについて周知したり、あいさつ運動の取組などについても、教育の日に行うなど計画的に行っていく。	毎日本の借りがえができていて読書はできていると思う。(高学年は少ないような) 他校と比べると子供の言葉使いが悪いように思う。	S ・ A ・ B ・ C	
				児童の運動能力を高めるとともに、運動が好きな児童を育てる。	①全国体力・運動能力テストで、全国レベルとなる。	・体育講習会の実施(基礎的な運動能力、水泳、バスケットボール) ・構内に運動に関する掲示をし、児童に運動に関する情報提供をする。 ・柔軟性を高める日常的な運動に取り組む(ジャックナイフストレッチ) ・運動を楽しむ環境づくり(施設、体育集会の実施、持久走など) ・縦割り班を利用した体育的な活動を設定し、習慣づくりをする。	・各学年の体力・運動能力テスト結果を全国平均以上にする。 ・学校評価アンケート「運動を進んでしているか」について、肯定的回答を85%以上にする。			・全国体力・運動能力テストの体力合計点は、女子は平均より-2.21Pであった。男子は平均+1.80Pであった。 ・「運動を進んでしているか」のアンケート結果は、肯定的回答が77.8%であり、昨年度より-12%と下がった。
健やかな体	B	児童の運動能力を高めるとともに、運動が好きな児童を育てる。	①全国体力・運動能力テストで、全国レベルとなる。	・PTAや地域との連携を密にしながら、学校運営への参画・協力を多くする。 ・学校支援地域本部を中心としながら取組を充実させ、積極的に外部人材を活用する。	・参観日参加率を90%以上にする。 ・学級通信、学校便りの発行を昨年度以上にする。 ・月1回は、ホームページの更新をする。 ・地域の方に参加してもらおう行事等を充実させる。	・参観日の参加率は、平均では85%程であるが、道徳参観日には91%の参加であった。また、要校作業への保護者の参加は116%も協力をいただいた。 ・学級通信、学校便りについては、昨年度並みに発行されている。 ・学校HPの更新は、残念ながら1.2学期は手つかずのままであった。 ・学校行事への案内やキッズチャレンジデー、交流餅つきへの参加など、地域の方との交流は増えてきた。	・参観日の参加率の向上を目指し、参観日の内容を具体的に分かりやすく知らせたり、また、毎回は無理かもしれないが保護者の参加型の内容を企画することなども考えていく。 ・HPについては、4月始業式の様子から更新し、行事や学校便りの度に必ず更新するように取り組む。 ・学校行事や取組のお知らせなど、地域への情報発信を継続していく。	休み時間(20分休み)外に出て遊ぶ子が少ないように思う。 低学年は積極的に取り組んでいる。	S ・ A ・ B ・ C	
				保護者・地域に開かれ、信頼される学校となる。	①学校行事などを工夫し、地域の中で育つ児童を育てる。 ②新改保育所との連携によって、香長地区の育みたい子ども像を共有し、連続した環境をつくる。	・特別支援教育に関する研修を年間2回以上実施する。 ・研究授業においては、インクルーシブ教育を意識したユニバーサルデザインの授業づくりをし、視覚支援により学習効果を高める。 ・効果のあった支援方法の記録を残す。	・特別支援教育に関する研修を年間、2回以上行う。 ・研究授業での評価項目「視覚支援」で、平均3以上を目指す。			・特別支援についての講師招聘研修を4月当初に行い、教職員間の共通理解を図った。支援会議は3回を行い、方向性を定めて児童の支援に当たった。 ・研究授業での「視覚支援」の評価は、平均3.5であった。
保護者地域との連携	C	保護者・地域に開かれ、信頼される学校となる。	①学校行事などを工夫し、地域の中で育つ児童を育てる。 ②新改保育所との連携によって、香長地区の育みたい子ども像を共有し、連続した環境をつくる。	・PTAや地域との連携を密にしながら、学校運営への参画・協力を多くする。 ・学校支援地域本部を中心としながら取組を充実させ、積極的に外部人材を活用する。	・参観日参加率を90%以上にする。 ・学級通信、学校便りの発行を昨年度以上にする。 ・月1回は、ホームページの更新をする。 ・地域の方に参加してもらおう行事等を充実させる。	・参観日の参加率は、平均では85%程であるが、道徳参観日には91%の参加であった。また、要校作業への保護者の参加は116%も協力をいただいた。 ・学級通信、学校便りについては、昨年度並みに発行されている。 ・学校HPの更新は、残念ながら1.2学期は手つかずのままであった。 ・学校行事への案内やキッズチャレンジデー、交流餅つきへの参加など、地域の方との交流は増えてきた。	・参観日の参加率の向上を目指し、参観日の内容を具体的に分かりやすく知らせたり、また、毎回は無理かもしれないが保護者の参加型の内容を企画することなども考えていく。 ・HPについては、4月始業式の様子から更新し、行事や学校便りの度に必ず更新するように取り組む。 ・学校行事や取組のお知らせなど、地域への情報発信を継続していく。	昨年の引きつぎが上手できてなかった様で地域への案内ができてない事があった。 昨年に比べて地域やPTAに参加してもらって行事ができたと思う。	S ・ A ・ B ・ C	
特別支援教育	B	一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制づくりをする。	①特別に支援を要する児童の特性を理解し、個に応じた具体的な支援をする。	・特別支援教育に関する研修を年間2回以上実施する。 ・研究授業においては、インクルーシブ教育を意識したユニバーサルデザインの授業づくりをし、視覚支援により学習効果を高める。 ・効果のあった支援方法の記録を残す。	・特別支援教育に関する研修を年間、2回以上行う。 ・研究授業での評価項目「視覚支援」で、平均3以上を目指す。	・特別支援についての講師招聘研修を4月当初に行い、教職員間の共通理解を図った。支援会議は3回を行い、方向性を定めて児童の支援に当たった。 ・研究授業での「視覚支援」の評価は、平均3.5であった。	・次年度も、年度当初に講師招聘の職員研修を行い、特別支援学級の児童を中心に、共通理解を図り、適切な支援にあたっていけるようにする。 ・担任任せにするのではなく、声がけや支援など全教職員で関わっていける体制づくりをより強化する。 ・引き続き、全教員がユニバーサルデザインの授業づくりに努める。	少しずついいと思うので学習をする時間をつくってあげてほしい。(プリント1枚から始めてもらって...)	S ・ A ・ B ・ C	